

「JENESYS」中国社会科学院青年研究者代表団 の記録

1. プログラム概要

【目的】本事業は、中国の哲学・社会科学の最高機関である中国社会科学院に所属する有望な若手研究者を訪日招聘し、「日本のコミュニティ・ガバナンスにおける経験と啓発」をテーマに、有識者によるセミナー、新しい時代に向けたまちづくりを展開している地域・各種団体の視察・交流を通じ、同分野における日本の実情と展望について理解を深めるほか、日本に対する包括的な理解を促進することを目的として実施しました。

【参加者】中国社会科学院に所属する青年研究者 10名

【訪問地】東京都、福岡県、佐賀県

【日程】

- プレプログラム 2024年1月10日（水） オンライン事前オリエンテーション
- 招へいプログラム 2024年1月14日（日）～1月20日（土） 6泊7日

日にち	概要
1月10日 プレプログラム	【オンライン事前オリエンテーション】 ①主催者代表挨拶 ②参加者紹介 ③日程・プログラム 説明 ④注意事項 説明 ⑤アクションプラン 説明 ⑥質疑応答 ⑦国連・国際機構の動画視聴
1日目 1月14日	羽田空港より入国
2日目 1月15日	【講義聴講・視察】 セミナー、おやまちプロジェクト 講師：東京都市大学都市生活学部 教授 ①セミナー「おやまちプロジェクト 創発的なコミュニティとリビングラボによるまちの共創」 ②質疑応答・意見交換 ③東京都世田谷区尾山台周辺商店街視察 【歓迎会】

<p>3日目 1月16日</p>	<p>【講義聴講・意見交換】杉並区教育委員会 講師：学校支援課 教育連携担当係長 ①ブリーフ 「杉並区立学校におけるコミュニティ・スクール等の取組について」 ②質疑応答・意見交換 福岡県へ移動</p>
<p>4日目 1月17日</p>	<p>【講義聴講・視察】さとづくり48 講師：東邦レオ株式会社 さとづくり48 プランナー ①ブリーフ 「まちづくりはさとづくりへ」 ②質疑応答 ③「ひのさと48」見学 佐賀県へ移動 【農家民泊】佐賀県唐津市・玄海町地域 入村式</p>
<p>5日目 1月18日</p>	<p>【農家民泊】佐賀県唐津市・玄海町地域 退村式 福岡県へ移動 【講義聴講・視察】津屋崎ランチ 講師：津屋崎ランチLLP 代表 ①ブリーフ 「多様性に溢れた寛容な地域づくり ～福津市津屋崎での空き家活用と人口増加の取り組み～」 ②地域見学ツアー ③質疑応答、意見交換</p>
<p>6日目 1月19日</p>	<p>【講義聴講・視察】北九州市保健福祉局 ①ブリーフ、質疑応答 (1)「高齢者の地域包括ケアのあらまし」 (2)「生活支援コーディネーター (地域支援コーディネーター)等 高齢者の支援活動について」 講師：保健福祉局地域福祉担当係長 (3)「地域包括支援センターの役割とその取組み」 講師：保健福祉局地域福祉担当係長 (4) 質疑応答 ②ブリーフ、視察（西小倉市民センター） 「地域における高齢者の生活支援について」 講師：社会福祉協議会ボランティア代表者 東京都へ移動 【歓送報告会】</p>
<p>7日目 1月20日</p>	<p>羽田空港より帰国</p>

2. 記録写真



2024年1月15日【講義聴講・視察】
セミナー、おやまちプロジェクト



2024年1月16日【講義聴講・意見交換】
杉並区教育委員会



2024年1月17日【講義聴講・視察】
さとづくり48



2024年1月17日・18日【農家民泊】
佐賀県唐津市・玄海町地域



2024年1月18日【講義聴講・視察】
津屋崎ランチ



2024年1月19日【講義聴講・視察】
北九州市保健福祉局

3. 参加者の感想（抜粋）

- ◆ 第一に、コミュニティガバナンスには多くの側面があり、それらに体系的に対応する必要があり、具体的な作業でも細部に注意を払い、地域の人々の幸福の向上に焦点を当てる必要があります。第二に、都市再生計画は体系的なプロジェクトであり、政策と資源の面で調整する必要があります。日本におけるコミュニティ再生プロジェクトでは、多くのプロフェッショナルが関わっているのを目の当たりにしました。コミュニティ再生プロジェクトは、古民家の再生だけでなく、地域全体の活力を刺激するもので、さまざまな階層や年齢の人々の現実的なニーズを考慮する必要があります。
- 第三に、高齢化にどう対処するかは、日中両国が直面すべき問題であり、日本はこの点に関して多くの努力をしてきたので、参考にする価値があります。法律面では、介護保険法などの法律が成立し、制度面では、日本国内に支援センターがあり、さまざまな自治体やボランティアが重要な役割を担っています。中国には中国の国情があり、日本には日本の国情があります。日本は、高齢化対策を自国の国情に応じて策定してきました。高齢化対策は、完全に独立したものではなく、実は既存の対策や制度の多くと一体化しています。これは、日本の高齢化対策成功の鍵でもあります。
- ◆ 日本は国民自治の度合いが高い国であり、誰もがよりよい生活のために何かをしたい、または何かをしようとしており、比較的団結しています。そして、具体的な実務では、それに対応する運用の余地もあり、政府は指導的な役割だけで、あまり介入しませんが、物事の発展を一定程度促進するのに役立っています。
- コミュニティ・ガバナンスの過程で、民間団体は多くの努力をしてきており、実際にその地域に住み、生活している人こそ自らの故郷を作り上げる方法を知っているのです。このようなモデルは最も効果的で、時間とコストを節約できるはずです。
- 交流の中で、語り手は皆、幸せな生活の追求、つまり人生をより便利で幸せなものにする方法を強調していました。これは、相対的に日本における近代化の度合いが高く、衣食住がもはや問題ではなく、人々のニーズが高いレベルにあることを反映しています。
- ◆ 今回の視察は、私たちにとって日本の生活のあらゆる側面を見て、日本を知り、日本を理解する絶好の機会でした。大学教授が研究プロジェクトを通じて地域活性化活動にどのように関わっているかを見ることができました。また、企業や個人がそれぞれの強みを活かしてふるさとづくりに参画している様子も目の当たりにしました。さらに、教育や社会福祉の分野で政府関係省庁がどのような対策を講じているかも学びました。今回の訪問で、地域住民同士の交流や参加の大切さを改めて理解することができました。また、幸運にも日本の家庭に滞在し、ホストファミリーの温かいおもてなしを受け、普通の日本人の家庭生活や、日本の田舎の生活の便利さとアクセスの良さを肌で感じることができました。
- ◆ 近代化は人々により多くの機会と自由をもたらしましたが、同時に人と人との間に疎外をもたらしました。1週間の調査を通して、私たちは、人々の間の疎外感を埋めようとする日本人

コミュニティの努力を目の当たりにしました。これはその中のボトムアップ的なものです。東京の尾山台のコミュニティ協議会は大学が発起し、個人のネットワークを通じて地域でさまざまな活動を行っています。福岡県のさとづくり団体は、地域経済の活性化とサービス提供に資する地域公共空間を創出しています。福津市津屋崎の「未来の会議室」は、移住者を惹きつけ、小さな町の価値を創造し、衰退したコミュニティを活性化し、市民社会がネットワーク、空間、文化といったさまざまな次元でコミュニティを構築しています。トップダウンの取り組みも行っており、杉並区教育委員会はコミュニティスクールを建設し、「学校支援本部」を育成し、地域が教育過程に参加するためのプラットフォームと、誰もが幸せになれる教育システムを構築しています。これらは、全て日本のコミュニティ形成の貴重な経験です。日本のコミュニティ・ガバナンスの経験を学ぶとともに、近代化の危機に対するコミュニティの役割など、理論的な問題を再考するきっかけにもなりました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

- ◆ 海外からの視察受け入れということで、区として取り組んでいる事業をより広域的な視点から見つめ直すきっかけとなりました。また、沢山のご質問をいただき、中国と日本の違いや、日本で当たり前と捉えていることに対する気づきを得ることができました。ありがとうございました。
- ◆ 短い時間ではありましたが、北九州市における高齢者の地域包括ケアをはじめ、高齢者の支援活動などについて理解を深めていただくことができたかと思います。また、意見交換では多くのご質問やご意見をいただきましたが、時間の都合上すべてにお答えすることができず、大変申し訳ありませんでした。
今回は、実際に地域の生活支援を行っている生活相談支援員の活動の現場を見ていただきましたが、相互にとって大変よい機会であったと思います。少しでも、視察団の皆様の研究の一助になれたのであれば幸いです。
この度は、遠いところお越しいただきありがとうございました。
- ◆ 5人の女性達はどなたも人柄よく、落ち着いておられました。あかるくお互いの連携もとれていました。安心して接することができました。食事の準備、後始末など手際よく、さすがと思いました。特に、おひとり日本語の堪能な方が居られ、助かりました。
提供した食事は、いつもの中学生に出す料理と同じものでしたが、どれも喜んで食べてもらい安堵しました。日本の普通の家庭のあり様を知ることができましたでしょうか。気になりました。近所の散策や、近所の方たちとの交流も計画すればよかったと思います。
わが家に来られたことで何か意義があれば嬉しいと思っています。
- ◆ 私は、NPO 法人に所属し、主に中学生や高校生の修学旅行の民泊受け入れを主として行っているものです。その中で、今回本代表団の受入をしましたが、事前に「公益財団法人日中友好会館」のことも調べもせず、代表団の方を、友好を意識せず、修学旅行生と同じ様な目線で受け入れさせて頂きました。代表団は 5 名の男性の方でした。まずは日本三大松原の一つである「虹の

松原」を見渡せる「鏡山」に登り、互いに写真撮影をしました。上り下りの際、翻訳機能付きのiPhoneで会話しながら民泊先へ。家では皆様の了解を得て、和服、袴を着用して頂き、日本刀を脇に差し写真撮影。袴姿のまま地元の神社へ案内し、おみくじを引きました。

帰宅しての夕食。鯛の刺身、土鍋炊きの鯛めしをメインに。日本の魚については、中国の方は様々な思いがあったでしょうが、笑顔で食され、一人だけ生ものが苦手な方がいて、その方の分まで分けて全て食べて頂きました。日本海玄界灘の刺身を紹介出来て良かったと思っています。食後には、お一人お一人がお土産を持参されており、心のこもったお土産を頂き感謝しております。頂いた「掛け軸」を床の間に掛け、お土産を床板に飾り、感謝を込めて写真撮影しました。

以前にも外国からは、中国の大学生、台湾の大学生、同小学生、韓国の大学生等、民泊で受け入れましたが、今回のように幅広い世代の方を受け入れたのは初めてでした。

しかし、それぞれ、民泊される方の思いやりで、(今回は大学教授の方々でもあり) 私たちが楽しいひと時を過ごさせて頂いているのだと、今回改めて考えさせられました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等



首页 使馆快讯 聚焦中国 中日动态 倾听中国 探索中国

首页 > 友好驿站

驻日本使馆公参王琳出席中国社会科学院青年学者访日代表团欢迎会

2024-01-19 18:15

1月15日，驻日本使馆公参王琳出席中国社会科学院青年学者访日代表团欢迎会。代表团团长、社科院社会发展战略研究院院长张翼，日中友好会馆理事长小川正史，外务省亚大局中蒙一课地域调整官龟井启次等出席。

王琳在致辞中表示，去年11月，中日两国领导人在美国旧金山再次会晤，为两国关系发展提供重要政治引领。中方愿同日方共同落实两国领导人重要共识，加强对话交流，深化互利合作，为中日关系改善发展注入更多正能量。学者交流是两国人文交流的重要组成部分。期待大家深入沟通，为增进两国相互理解、夯实民意基础作出贡献。

小川热烈欢迎代表团来访，表示代表团此行将走访东京、福冈、佐贺等地，希望大家积极开展交流互鉴，搭建更多友谊桥梁。

2024年1月19日（中华人民共和国驻日本国大使馆 ホームページ）

「駐日本国大使館王琳公使参事官が「中国社会科学院青年研究者代表团欢迎会」に出席」
王琳公使参事官による代表团に向けた中日友好の期待、小川理事長の発言内容を紹介されました。

中国社会科学院青年学者调研日本社区治理

2024-03-15 来源：社科院专刊总第681期 作者：国际合作局

分享到：

字号：[大] [中] [小] [关闭] [打印]

中国社会科学报 应日本日中友好会馆邀请，中国社会科学院青年学者代表团一行10人近日访问日本，围绕“日本社区治理的经验与启示”展开调研。代表团先后参访东京都杉并区教育委员会、福冈县北九州市保健福祉局，走访调研多种典型的社区营建模型，并通过座谈会、农家寄宿等形式，与日方专家及民众开展广泛交流，深入观察地方政府、社会组织、企业、个人等多元主体参与下日本特色的基层社区治理模式与经验。

代表团成员认为，中日两国“社区治理”的概念虽不完全相同，但在社会背景、经济条件、政府动力等方面具有共通性，此次调研中了解到的日本经验可为我国社区治理现代化提供借鉴和参考。

2024年3月15日（中国社会科学院 ホームページ）

「中国社会科学院の青年研究者が日本のコミュニティガバナンスを調査・研究」
中国社会科学院青年研究者代表团一行が「日本のコミュニティ・ガバナンスにおける経験と啓発」をテーマとし、参加したセミナーや地域運営・教育・高齢者支援などの分野に関わる地方自治体の視察について紹介。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表



【訪日中の学び】

テーマに関するたくさんの課題を抱えて来日した。都内や地方の町、自治体への訪問・視察、民泊を通じ、自身の専門分野にも関連のあるコミュニティ制度の構築・ガバナンスの成果にじかに直接に触れることができ、日本社会への理解を深めた。また、興味分野と今後の研究の方向性も見えてきた。

【アクション・プラン】

- ・日本の介護保険法などの高齢者関連法律をさらに分析し、基本知識をサポートする面から政治家をバックアップしたい。
- ・地域ガバナンスにおいて、一つの目標を実現するには多様な主体による協働が有効だが、とても複雑で課題が多いため、法律の分野からどう保障していくか研究を進めたい。



【訪日中の学び】

今回の訪問で、日本人は人と人のつながりと交流をととても重視していることが分かった。通信環境が発達し、現代社会は遠くの人や事柄に気を取られがちだが、地域ガバナンスの取り組みが進んでいる地域の住民は、人口の減少を悲観することなく、近隣の人との関係を大事にし、暮らしやすく工夫していることに気づいた。また、日本文化は中国に近い部分もあるが、複雑な一面もあった。文化の違いにもっと関心を持ち、尊重し、認め合う必要があると思った。

【アクション・プラン】

- ・街中で馴染みのある漢字をよく見かけ、日本語に対する興味が一層強くなった。日本のことをよく理解するために日本語の勉強を始めたい。
- ・中日は隣国であるため、青年の就職に関する中日の比較研究をする予定。

実施団体名：(公財)日中友好会館